

気付いた大切なこと

小四

わたしは小学校三年生のころ、人生にとつて大切なことに気が付きました。それは、「人はみんな同じではない」ということです。

学校には、いろいろな人がいます。じゅ業中にずっと話をしていく、先生の話を聞かない人もいれば、静かに先生の話を聞いている人もいます。友達がたくさんいて、にぎやかな人もいれば、休み時間でも一人で本を読んでいる人や、それが苦手な人もいます。でも、それぞれがついて、それにはいいところがあると、

わたしは思います。

三年生のころ、わたしはあるクラスメイトのことを気にして見るようになりました。その子は、いつも静かで、あまり友達としやべることがありませんでした。はじめのうちは、「さみしくないのかな。」と思つたり、「なんでみんなと遊ばないんだろう。」と不思議に思つたりしていました。

でも、あるとき、その子が図工の時間に作つた作品を見て、わたしはびっくりしました。とてもていねいで、色づかいも工夫されていて、わたしにはまねできないようなすてきな作品でした。先生も「これはよく考えられているね。」とほめています、

わたしは「この子には、こんなすごい力があるんだ。」と気が付きました。

それから、わたしはその子のことをもっと知りたいと思い、勇気を出して話しかけてみました。すると、少しひずかしそうにしながらも、やさしく答えてくれました。話してみると、お気に入りのキャラクターのことなどで、とても話がもり上がりました。思っているより明るく元気な子だと知ることができました。わたしは、「今までこの子のことを知らなかつただけなんだ。」と思い、少しはすかしい気持ちになりました。

この出来事があつてから、わたしは「ちがいは悪いことじやない。む

しろその人のいいところなんだ。」と考えるようになりました。もし、みんなが同じようにふるまつていて、同じことだけをしていたら、学校はつまらなくなるし、成長するチャンスもなくなってしまうと思います。

人にはみんな「個性」があります。明るくて元気な人もいれば、おとなしくて考えるのが上手な人もいます。頭のよさや運動ができるだけでなく、人にやさしくできることやしつかり話を聞けることだつて、大切な力です。そうしたちがいを大切にすることが、人権じんけんを守るということではないかとわたしは思います。

これから先、わたしはいろいろな人に出会うと思います。その中には、

自分と合わないと感じる人や、考え方
がちがう人もいるかもしれません。
でも、そういうときこそ、「この人
にもきっとさてきなところがある」
と思える人になりたいです。そして、
自分とちがう人のことも、同じよう
に大切にしたいと思います。